

第3次総社市総合計画 基本計画（素案） パブリックコメントに寄せられたご意見の要旨と市の考え方について

通番	区分	ご意見の要旨	市の考え方
1	個別事業の要望	ユースセンターといった10代の子が集える場所や、児童館といった子どもだけで集える場所が必要だと感じます。現在は居場所が3歳までで途絶えてしまいます。	こども・若者の居場所づくりについては、基本目標1住む人にやさしいまちを創る(1)一人ひとりにやさしい人生のサポート1こども・若者が主人公になれるまちの施策である「●こども・若者の居場所づくり」に基づき検討していきたいと考えております。
2	個別事業の要望	不登校になっても、その後の進路は実際は様々です。大人が過度な心配や恐れを抱くのではなく、子どもを支える金銭的な支援と、体験の機会、様々な学び方に触れる機会があればと思います。現在、学校に集約されている学びや体験の一部は、地域が担えるものも多く、総社市の地域資源は豊かですので、心休まる居場所を作れると思います。イエナプラン、シュタイナー教育、デモクラティックスクール…オルタナティブな学びの場が全国にはあるので、そうした特色ある学校の設立もよいかと思います。	ご意見いただいておりますとおり、不登校へのアプローチは学校だけに限らず様々な手法があると考えております。現在、総社市教育支援センターにおいて「ふれあい教室」を実施しており、学校に行けない子どもの居場所や体験活動、カウンセリングなどを行っています。大学生によるボランティアスタッフなども在籍しており、同年代による相談や、家庭訪問によるケアなどにも対応しています。また、各学校においても状況に応じて別室を設置し、柔軟な対応と支援を行っています。 地域資源を生かした特色ある学校の創立についてのご意見は参考とさせていただきます、基本目標3学ぶ人にやさしいまちを創る1魅力ある教育環境の創造の施策である「●不登校、問題行動等に対する取組」に基づき、関連機関等と連携を図ることで様々な学びにつなげていきたいと考えております。
3	基本目標1住む人にやさしいまちを創る 基本目標2働く人にやさしいまちを創る	人口の増加の目標と企業誘致が妥当なのかは疑問です。住宅街の道が狭いまま交通量が増え、180号線だけでなく外の道路もトラックが増えてきており、歩行者にとって危険な場所になっています。	企業誘致等の土地利用の在り方については基本目標1住む人にやさしいまちを創る(2)住みたくなる・住み続けたくなるやさしいまちをつくる1もっと生活を便利にの施策である「●主体的な土地利用の促進」において挙げているように、地域の実情に応じたものにすることが重要であると考えております。ご意見をいただいている、道路の状況と交通量も考慮すべき重要な視点と捉え進めてまいります。

通番	区分	ご意見の要旨	市の考え方
4	個別事業の要望	<p>6ページの子育て王国そうじゃの推進についてです。保育が必要なこどもが保育園等を利用できる環境整備とあります。幼稚園預かり保育の充実とありますが、具体的に、朝7時半からの預かり保育の開始、夏休みや冬休み等の長期休業期間も給食の実施をしてほしいです。</p>	<p>幼稚園預かり保育の開始時期については、課題の一つと考えます。今後、幼稚園の魅力化の推進、よりよい保育環境を提供するため、基本目標1住む人にやさしいまちを創る(1)一人ひとりにやさしい人生のサポート2子育て王国そうじゃの推進の施策である「●幼稚園預かり保育の充実」に基づく取組を進める中で、いただいたご意見を含め、検討してまいります。</p> <p>また、給食の提供については、学校給食センターにおいて、小中学校の給食と合わせて調理しております。長期休業期間は、学校給食センターが稼働していないため、実施については慎重に検討する必要があると考えております。</p>
5	個別事業の要望	<p>総社市における今後の道路整備・交通安全対策の一環として、ラウンドアバウト（環状交差点）の積極的な導入を検討していただきたいと考えます。</p> <p>ラウンドアバウトは、信号機を必要とせず、交差点での車両速度を自然に抑制できるため、交通事故、特に重大事故の発生リスクを大幅に低減できるとされています。また、停電時にも機能することから、防災・減災の観点でも非常に有効な交差点形式です。</p> <p>総社市は比較的交通量が過度に集中しない交差点や、生活道路と幹線道路が交わる場所も多く、ラウンドアバウトの導入に適した立地条件を備えていると考えます。高齢者や自転車利用者、歩行者にとっても安全性が高まる点は、今後の人口構成を見据えたまちづくりにも合致します。</p> <p>また、全国的にもラウンドアバウトの導入事例は増加しており、地域の特色ある先進的な交通施策として、市の魅力向上や注目度の向上にもつながると期待されます。</p> <p>まずは小規模な交差点や新設道路、改良予定箇所から試験的に導入し、市民への周知や交通教育とあわせて段階的に拡大していくことをご検討いただければ幸いです。</p> <p>安全で持続可能な交通環境の実現に向け、ラウンドアバウト導入について前向きな検討を強く要望いたします。</p>	<p>ラウンドアバウトについて、ご意見いただいたような利点があることは承知しております。その一方で、既存の交差点より多くの土地が必要となることや交通量によっては十分な効果が発揮できないこと、かえって渋滞を招くことになる等の課題もあります。</p> <p>交差点の状況がラウンドアバウトの効果を発揮できるような条件を満たすものについては、選択肢の1つとして検討させていただきます。</p>

通番	区分	ご意見の要旨	市の考え方
6	<p>基本目標 1 住む人にやさしいまちを創る (2) 住みたくなる・住み続けたくなるやさしいまちをつくる 2 住みたい人に選ばれるまち</p>	<p>近年、若者や女性の都市部流出が地方共通の課題として指摘されていますが、本計画においては「流出を防ぐ」という視点だけでなく、「地元を人生の選択肢として選べる環境が整っているか」という観点をより重視すべきであると考えます。</p> <p>2026年1月1日の山陽新聞において、「問題の本質は、女性が都会に出ていくことではなく、地元を選べないことにある」という当事者の声が紹介されていました。学生がリターン就職を希望しない理由としては、志望する企業がない、賃金が低そう、希望するキャリアを築けないといった経済的要因に加え、生活の利便性や価値観・意識の問題も挙げられています。</p> <p>このことから、対策は以下の二つの側面から総合的に進める必要があります。</p> <p>1. 行政が取り組むべき視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者・女性が参画する計画策定や政策検討の仕組みを制度として明確に位置づけること</li> <li>・地元企業情報の見える化や、テレワーク・副業など地域に縛られない働き方の推進</li> <li>・キャリア形成や管理職登用を含めた若者・女性の将来展望を描ける支援策の強化</li> <li>・ジェンダー平等や多様な生き方を尊重する姿勢を、計画の中に明確に示すこと</li> </ul> <p>2. 地域(住民・団体)が担うべき視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者や女性が安心して集い、意見を発信できる居場所や対話の場づくり</li> <li>・固定的な性別役割分担意識を見直すための学びや交流の機会の創出</li> <li>・挑戦する若者を地域全体で応援し、失敗を許容する文化の醸成</li> </ul> <p>今後の総社市総合計画は、年配層中心の視点にとどまらず、これからの地域を担う若者や女性の声が反映され、「住み続けたい」「戻りたい」「ここで挑戦</p>	<p>ご指摘のとおり、「地元を人生の選択肢として選べる環境が整っているか」という点は非常に重要な観点であると考えております。若者や女性が地元を選ばない・選べない要因としては、ご指摘のように経済的要因に加え、生活の利便性や価値観・意識の問題もその一因であるとの調査もあります。</p> <p>一方、今回の総合計画策定に向け実施した、市内の高校生や大学生へのヒアリングの中で、参加者からは地域の中で活躍できるような役割を任せられることを望む声もあれば、逆に若者であることを理由に役割を求められることが重荷になるとの意見もありました。</p> <p>このため、ジェンダー平等や固定的な性別役割分担意識の見直し、挑戦する若者を地域全体で応援することなどは非常に重要な視点であります。当事者の考えるものとかげ離れた役割を押し付ける形にならないように進めていく必要があると考えております。</p> <p>本計画においては、基本目標1住む人にやさしいまちを創る(1)一人ひとりにやさしい人生のサポートにおいて「1こども・若者が主人公になれるまち」を最初に柱として位置付けているように、当事者を主人公として捉え、周りからの意見の押し付けではなく、若者の主体的な意見の聴取や反映ができるような姿を目指しております。</p> <p>また、「5多様な人がともに生きるまち」においては、「互いを思いやり活躍する」として、男女共同参画社会づくりに向けた意識改革や、ワーク・ライフ・バランスの実現等の女性が活躍できる体制整備、女性の人材育成や参画、チャレンジ支援をはじめ年齢、性別、国籍、障害の有無に関係なく活躍できる地域づくりを掲げています。ご意見をいただいております。具体的な方針と仕組みの明示につきましては、この姿勢を基に当事者の意見を傾聴し、具体的な事業化を行っていきたいと考えております。</p>

		<p>したい」と思える地域を目指す計画であることが重要です。</p> <p>単なる人口流出対策ではなく、「誰もが生きやすく、選 び続けられる総社市」を実現するための具体的な方針と 仕組みを、本計画の中でより明確に示していただくこと を強く望みます。</p>	
--	--	--	--

通番	区分	ご意見の要旨	市の考え方
7	<p>基本目標 3 学ぶ人にやさしいまちを創る</p> <p>1 魅力ある教育環境の創造</p> <p>●学校・家庭・地域の連携の推進</p>	<p>「まちづくりはひとづくり」の視点を、総社市総合計画の基本的柱として明確に位置づける。</p> <p>岡山県井原市では、「まちづくりはひとづくり」を合言葉に、教育委員会と生涯学習部門が中心となり、学校教育と地域活動を一体的に捉えた人材育成に、市民総ぐるみで取り組まれている。そこでは、子どもから高齢者までが地域の課題を学び、考え、行動する機会が意図的に設けられ、結果として地城コミュニティの担い手が継続的に育っている。</p> <p>一方、本計画(素案)では、「人づくり」「教育」「生涯学習」「地域づくり」がそれぞれ重要施策として示されているものの、これらを横断的に貫く共通理念としての「ひとづくり」の位置づけがやや弱く、施策同士のつながりが市民には見えにくい印象を受ける。</p> <p>今後、人口減少・高齢化が進む中においては、行政だけで地域課題を解決することは困難であり、地域で考え、支え合い、主体的に行動できる人材の育成が不可欠である。</p> <p>そのためには、教育委員会・学校・生涯学習・地域づくり施策が相互に連携し、「人を育てること」がまちづくりの基盤であることを、計画全体で明確に示す必要があると考える。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「まちづくりはひとづくり」を総社市の将来像や基本理念の一つとして明示する。</li> <li>・学校を学習の場にとどめず、地域と共に人を育てる拠点として位置づけ、地域住民が教育に関わりやすい仕組みを整える。</li> <li>・生涯学習を単なる教養向上ではなく、地域活動や地城課題の解決につながる実践的な人材育成として推進する。</li> <li>・子ども、若者、大人、高齢者が役割を持って地域活動に参画し、世代を超えて担い手が循環する仕組み</li> </ul>	<p>まちをつくるためにはそれを支える人材の育成が重要であると考えております。本計画では、基本目標3学ぶ人にやさしいまちを創るの「1魅力ある教育環境の創造」において「学校・家庭・地域の連携の推進」を掲げ、具体的な取組として地域住民が参画した学校運営協議会の設置を盛り込んでいます。また、「2生涯学び、スポーツできる環境の実現」においては「生涯学ぶ」を掲げ、具体的な取組として持続可能な生涯学習活動の推進を盛り込んでいます。また、本計画においては、「3伝統文化を次世代へ」という柱を設け、地元のことを学び、郷土愛やシビックプライドのような地元に対する愛着を醸成することで、次世代の総社を担う人材の育成を進めていこうと考えております。</p> <p>更に、基本目標4集う人にやさしいまちを創るの「1やさしい社会の実現」では、地域全体で地域の課題を考え取り組んでいく仕組みづくりやボランティア意識の高揚と活動を育成していくことを掲げております。以上の取組みを横断に連携を図っていくことで人が育ち、地域が育つ環境を整えていきたいと考えております。</p>

		<p>みを構築する。</p> <p>以上の点を本計画に反映することで、「人が育ち、 地域が育つ総社市」の実現につながるものと考えます。</p>	
--	--	---	--

通番	区分	ご意見の要旨	市の考え方
8	基本目標 4 集う人にやさしいまちを創る	<p>総社市「第3次総社市総合計画基本計画(素案)」において、地域コミュニティの分野では、性別・年齢・国籍等に関わらず多様な視点を尊重し、地域課題を共有し、一致団結して解決することで「地域一元化」を目指すことが明記されており、その方向性には賛同します。</p> <p>一方で、「行政一元化」については、文面からは主に窓口対応や事務手続きの効率化・一元化に重点が置かれており、地域課題そのものを解決するための行政体制については、十分に示されていないように感じます。</p> <p>市長は、新庁舎の建設とともに、「行政の一元化」を実現するという目標を掲げ、地域ごとの担当を決め、地域の様々な問題を一括して受ける仕組みを作る方向性を示されました。</p> <p>これは、現在のように各部署が個別に担当するのではなく、地域全体の課題を包括的に取り組むことが求められています。</p> <p>しかし、現状では地域課題が複数の分野にまたがる場合、それぞれの担当部署に分かれて対応されることが多く、結果として市民が複数の窓口を行き来することになります。このような対応では、行政の効率性や市民の利便性が十分に向上せず、市民にとって負担となることがあります。この状況は、「日本一市民にやさしい市役所」を目指す姿とは言い難いと考えます。</p> <p>今後、人口減少や高齢化、地域活動の担い手不足など、地域課題はますます複雑化・複合化していくことが予想されます。従来のように課題ごとに各部署が個別に対応する体制には、既に限界が来ているのではないのでしょうか。</p> <p>そこで、地域課題の把握から関係部署との調整、解決までを一体的に担う「地域課題解決に特化した専属部署」を設置し、行政内部の縦割りを超えた対</p>	<p>現在のところ、地域ごとの担当を置くことまでには至っておりませんが、相談を受けた職員が市民の困りごとをお聞きし、相談内容に合わせて適切な窓口以案内できるよう、寄り添った対応を行うこととしております。</p> <p>基本目標4集う人にやさしいまちを創る3日本一市民にやさしい市役所の実現の施策である「●職員の育成」により市民の目線に立ち、相談を横断的な解決に導いていけるような職員の育成を行うことで、困りごとを気軽に相談のできる体制づくりを進めていきたいと考えております。具体的な体制づくり等の方向性については、いただいたご意見も踏まえ、地域づくり協議会等と連携しながら最適な形になるよう検討していきたいと考えております。</p>

		<p>応ができる体制を構築することを強く望みます。</p> <p>地域一元化を掲げるのであれば、それを支える行政側の体制として、事務手続きの一元化にとどまらず、地域課題解決を軸とした行政一元化の具体的な仕組みを、計画の中に明確に位置づけることが必要だと考えます。</p>	
--	--	---	--